

3年選択科目『時事問題』2年目の試み

長野県中野実業高等学校教諭 黒岩 隆

I. はじめに

長野県の北のはずれ、志賀高原のふもとに位置する本校は、商業科・機械科・電気科・土木科の専門4科を持つ職業教育をその旨とする高校である。各科1・2クラスの数で、全校生徒800人弱の中規模校である。半数近くの生徒がクラブ活動を行い、運動部によって学校が支えられている感もある。今年行われたオリンピックにも、何名かの本校卒業生が出場し、入賞を果たした。

本レポートでは、新しい教育課程の実施にともない、昨年度より開設している3年商業科の生徒対象の選択科目について紹介する。

商業科2クラスから、12名（女子10名、男子2名）の生徒が選択していた。開設されている9科目からの選択である。週3時間、図書館で四角くなって、顔を突き合わせての授業である。自分が楽するためではないが、司会も生徒にまかせ、生徒の自主性を尊重し、発表形式の授業を続けた。

日々の新聞発表を基本とし、その中で自分のテーマを見つけ、研究へとつなげた。昨年度担当された先生が、しっかりとしたルールを敷いてくれており、基本的にはその路線に沿って進めた。社会科全体で作り上げていく科目ということを忘れず、進めていった。

II. 1年間の計画とその実施

昨年度のルールの上で、ほぼ計画が立てられ、（資料1）の内容で授業が進められた。計画通り進まなかった点もあるが…。

（1学期の実際の評価は、新聞切抜き30点、新聞発表・討論・感想45点、「時事問題研究」の取り組み15点、新聞への投書5点、新聞社見学5点となった。）

1) 新聞切抜き

1学期は、新聞第1面トップ記事の切抜きを行った。スケッチブックの左側に新聞記事を貼り、右側に要旨・感想を書かせた。自分で考えた見出しによる目次もつけた。家での毎日の作業である。やはり、切抜きが一番苦痛だったようで、4人の生徒が提出できなかった。けれども、継続できた生徒は、新聞を読む機会が持てて、時事問題に対する認識が少なからず深まったと思われる。また、半数

近くの生徒がまとめて行い、期限に遅れる生徒も多かった。来年度は、もう少し工夫が必要であろう。

2) 新聞発表・討論・感想

毎時間、基本の授業内容としておこなわれた。プリント左側に自分の興味のある新聞記事を貼り、右側にその要旨・感想を書いて、みんなの前で発表した。当初3～4人の発表で出発したが、“討論の時間を長く取りたい”という生徒の希望から、最終的にはほぼ3人の発表に落ち着いた。それには、内容のある発表でないと時間が持たないともいえる。事前に、その都度、発表内容を見てアドバイスをしたいところだが、発表直前のプリント提出に、その時間を持ってないでいたのが現状であった。

3) 「時事問題研究」

新聞発表を行っていくなかで、各自興味のある事柄の中からテーマを絞り、「時事問題研究」を進めた。各自のテーマ(資料2)は、6月の初旬に決定したが、その後変更した者も何人かいた。

取り組みの浅深は著しく、研究発表の時にやっと間に合わせる程度の者から、もう自分の守備範囲を越えて、本人に逆に教えられることが多かった者もいた。「従軍慰安婦問題」を研究した生徒は、多くの資料を駆使し‘真実は何か’を追及し、原稿用紙105枚の論文にまとめた(資料3)。また「いじめについて」を研究した生徒は、担当していた教官とともに、各種集会に参加したり、自分の考えを集会で発表し、その内容が論文として活字となって雑誌に掲載された(資料4)。9月末、全校生徒に向けて、同和教育係と共同で、放送と資料を使って「いじめに関する一斉アンケート」をおこなった。アンケート結果を集計し、新聞社見学・裁判傍聴のまとめとともに、文化祭で展示発表した(資料11)。

そのほか、「遺伝子組み換え食品」・「薬害エイズ」では、厚生省に直接電話を入れ、資料請求をしたり、また、エイズ検査を実際に受けてみたりもした。「ゴミ問題」の生徒も、近くに新しくできた清掃工場を見学し、係の人からゴミの現状についての話を聞いた。さらに、「多重人格」を研究した生徒は、やはり近くの精神科医に会って、精神病の境界などについての話を聞いた。

どの生徒も、それぞれのテーマを深め、論文(原稿用紙30枚以上)にまとめ、苦労はしたものの満足して卒業を迎えたと言っている。

III. 新たな試み

1) 新聞への投書

新聞発表が2周りほどしたある時、1人の生徒が、「私たちの調べていることが、何か社会のためになるの?何か社会を変えられるの?」と言い出した。そこで、いろいろと考えたが、まず、みんなの考えていることを多くの人に伝えようじゃないかということで、新聞への投書をしてみることにした。新聞は、身近な人が多く読んでいる「信濃毎日新聞」に決定した。

「まず、先生が載らないと私たち書かないヨ。」というので、早速筆を取り、今おこなっているこ

の授業の事を書いた。運良く掲載してもらったので、生徒もその後が続いた。投稿テーマの決定から、下調べ、原稿執筆まで、4時間を費やした。原稿は、8人の生徒が書き上げ郵送したが、3人の生徒の採用をみた(資料5)。案外、先生方、時事問題を選択していない生徒達が、記事を読んでくれており、新聞の情報伝達力に感心させられた。採用された生徒達にとっても、励みとなり、大きな喜びとなった。これを機に、時事問題の取り組みがより熱心になった子もいる。

数日後、1人の老人から、生徒の投書に対する応援の投書(資料6)が新聞に掲載され、大いに盛り上がった。その後、保険屋のおばちゃんにも、「先生読んだヨ、生徒たちも頑張ってるネ!」という言葉聞いた。‘伝わっている’、こんなところまで…。これも、ひとつの成功であろう。

2) NIEに採用

学校教育に新聞を活用しようというNIE(Newspaper in Education)の活動を、教育センターの研修で知り、信濃毎日新聞と県教育委員会に問い合わせると、自然の成行きで指定校になることとなった。

9月1日から4社(信濃毎日・産経・朝日・読売)の新聞が学校に届けられ、ホールの一角に「NIEコーナー」を設け、全校生徒に閲覧した。「時事問題」の生徒が交替で当番をし、バックナンバーは、棚に保管した(12,1月は、新聞社を毎日・中日・日経に変更)。

11月3日・12月8日など特定日に全社の新聞をとり、記事内容の比較スクラップ等を、授業のなかで試みた。しかし、時間に余裕がなく、有効に利用できなかったのが現状である。ただ、「社説の比較」など、スクラップ新聞には可能性を感じた。そのほか、国語の先生が独自に、1年生の生徒を対象に、興味のあるテーマごとに新聞を切り抜かせ、何種類かのスクラップ新聞を完成させた。また、3年生全員の生徒を対象に、夏休みの宿題として、「私にとっての戦争」と題して、8月6,9,15日などの戦争に関する新聞記事をスクラップさせ、要旨・感想を書かせた。

以上、今までの授業は、自宅の新聞で十分に事足りることが多く、提供された大量の新聞を用い、何か新しい取り組みが出来ないかと頭を悩ませている。有効な利用方法があったら、ぜひ、お教え願いたい(今年度も、特定日に全社の新聞を配達してもらうことになっている)。

3) 新聞社見学

NIEの採用にあたり、コネクションのできた信濃毎日新聞社に、ぜひ、生徒達を連れて行きたいと思い、生徒達に諮ったところ、全員の賛同が得られた。自分達の普段読んでいる新聞が、どの様につくられるかは、全員が興味を持つところだった。事前に1時間とり、質問事項(資料7)を考え、7月2日の見学となった。生徒達にとって、新鮮で多くの感動を呼んだ(資料8)。報道部長さんとの質疑も、時間が足りなくなるほど活発にできた。生徒達の人生にとって、大きな宝物となったことであろう。裁判傍聴も含め、外での学習は生徒の心に強い印象を残す。新聞記者の方が学校を訪問し、生徒と交流を持つことも有意義な時間になることと思う。

IV. まとめ

2年目に入ったこの科目も、最後、時事問題研究論文・発表で終了した。生徒達は、最後だいが論文作成で苦しんだが、「この科目を取って良かった」という大きな満足感が残ったようである。

それでは、授業を担当してきた感想も含め、まとめとしたい。

・新聞発表（研究発表）は、やはり基本であり、核となるものだ（資料9）。生徒にも、大変好評だった。人前で自分の意見を発表したり、人の意見を聞いたりすることは楽しいようだ。

・毎時間の新聞発表の感想のまとめは、大変な作業量であるが、生徒達が他の生徒の意見に多くの関心を寄せていることから、欠かすことができない。発表のまとめとしても、毎回おこなうことが大切であったように思われる（資料10）。

・生徒達自身でつくる授業を目指したが、生徒達に意欲の差があり、結局、こちらから手を差し伸べることが多かった。

・生徒達のテーマが多岐にわたり、社会科全員での取り組みとしていたが、それでも、生徒達のテーマにアドバイスしきれないことが多かった。

・普段目立たなかった生徒が、自分の好きなテーマについて研究するようになってから、輝き始めた。「時事問題」の授業で、生徒が変わった。この授業は、一部の生徒にとっては、その生徒の持つ潜在的な能力を引き出せるきっかけになるかもしれない。

・12人という少人数が、新聞社見学等で、行動しやすいという利点を生んだ。（10月6日には、長野地方裁判所へ刑事裁判傍聴に行った。業務上過失致死の裁判であったが、生徒達に、また一つ貴重な体験が加わった。）

・生徒1人1人が、自分のテーマ研究のため、教室・学校だけでなく、外の社会に向けて飛び出すことができた。そして、その社会の中で、社会そのものを学んだ。これは、その子にとって“生涯を通しての社会学習のベース”にもなるものではないかと思う。現に、卒業してからも自分のテーマを追い続けている子がいる（「いじめ問題」「従軍慰安婦問題」）。

・新聞への投書・文化祭での展示発表を通して、生徒が自分の意見を社会に発信できた。生徒達は、文化祭での見学者のアンケート（資料12）に対する反応などをみても、社会（教師）からの返信に大きな期待を寄せていることがわかった。

たまに、社会科の先生方と話すのだが、「授業は、自分がやってみて楽しくなきゃ、きっと、生徒も楽しくないワ。」と。この「時事問題」という授業は、うまくいけば、そんな言葉が聞かれなくなる、そんな可能性のある授業のような気がする…。

そんな授業も、きっと、“きっかけは「新聞」から”であろう！

1998.5.21 記

時事問題の進め方

中野実業社会科

1. 年間の計画

(1)新聞第1面トップ記事のまとめ 4/14(月)～7/4(金)の60日間

- ・各自で、毎日の新聞第1面トップ記事を切抜きまとめる。
- ・提出日 5/12(月) 6/9(月) 7/7(月)の3回

(2)新聞記事の発表と討論

- ・1時間の授業で3～4人ずつ発表し討論する。事前にクワイマまでプリントを持ってくる。
- ・当面の間行い、各自が研究テーマを決定するための資料にもする。

(3)「時事問題研究、及び、論文」

- ・5/12(月)までに各自研究テーマを決める。
- ・12/1(月)を〆切とする。
- ・6月下旬に中間発表会を開き(選択者及び社会科教員)、12～1月にかけて最終発表会(選択者及び社会科教員と希望教員)を開く。

(4)文化祭での展示

- ・各自の「時事問題研究」をまとめて発表する(途中経過)。
- ・みんなで同じテーマについて調査する。EX.「消費税5%」など
- ・裁判所・新聞社・オリンピック施設・新東山清掃工場など見学のため

(5)随時、みんなの意見を聞きながら見学の予定を立てたり、進め方についても、より充実した内容になるよう手を加えていく。

2. 評価

成績は、次の項目の総合評価とする。なお、評価は社会科教員の合議とする。

- (1)1学期 — 新聞切抜き 30点 新聞発表・討論・感想 30点
「時事問題研究」の取り組み・中間発表 40点 計100点
- (2)2学期 — 新聞発表・討論・感想 20点 文化祭の発表 30点
「時事問題研究、及び、論文」の取り組み 50点 計100点

*本校社会科2年目の科目です。昨年の内容を引き継ぎながら、みんなが世の中の事を、より広く、より深く考えることができるような内容にしていきたいと考えています。社会科全員で応援しますので、皆さんの積極的な参加・意見を期待します!

(資料1) 年間計画と評価(生徒配布プリント)

時事問題研究 (6/11 現在)

研究テーマ	氏名	指導教官
脳死のこと(臓器移植)	浅野 愛	倉科
税金の使い道 地球温暖化	岡田 里美	町田
食生活 ゴミ問題	白鳥 文美	黒岩
遺伝子組み換え問題	常田 蘭	黒岩
在日韓国人	徳武佳代子	黒岩
多重人格(者)	丸山 朝美	赤塩
熱帯林の減少(動燃事故について) 原子力発電所	村松 直美	町田
ヒット商品について	近藤 隆志	黒岩
過疎化について	山本 陽介	黒岩
いじめについて	阿部 千晃	倉科
エイズ～川田龍平さんの訴え～	島田 美幸	赤塩
従軍慰安婦の問題	本多 明美	黒岩

*「時事問題研究使用資料」は6月25日(水)に提出して下さい。それまでに、上記の先生まで相談に行ってください。

(資料2) 研究テーマ一覧表(生徒配布プリント)

1. テーマ NAME. 本多明美

「従軍慰安婦」問題

2. 読んだ本・雑誌・新聞など (著者・発行年月日・題名・出版社を記す)
- ① 朝まで生テレビ 97.2月 『従軍慰安婦問題と歴史教育』 テレビ朝日
 - ② 上杉千年 H8年12月 『検証 従軍慰安婦 (増補版)』 全貌社 {初版もなし}
 - ③ 金富子・忍澄子ほか 1995年1月30日 『おどろきたい「慰安婦」問題へ性と民族の視点から〜』 明石書房
 - ④ 朝日新聞戦後補償問題取材班 『従軍慰安婦』 1999年6月25日 『戦後補償とは何か』 朝日新聞社
3. 調査に行った所
- ① P戦後補償 歴史について完了。
 - ② 軍の関与 邦文で実証する資料を探す。
 - ③ 調査を行った所 証書と実際に聞いてみる。

研究報告

■ 軍慰安婦制度の創設と拡大

◎ 1931年 満州事変 (日本が中国東北(満州)に対し 上海に戦闘が拡大)

◎ 1932年 1月 上海事変 がおこる

この時(1932年初め)に上海に派遣された日本陸海軍が軍慰安所を設置した。

これが確実な資料により確認される最初の事例。

その後

◎ 1937年 7月 日中全面戦争 (中国に対する全面的な 侵略戦争) 中国大陸に派遣された兵力が すぐに80万に達した。

(南京大虐殺直後) これに応じて 1937年末から中国における占領地に、日本軍は 軍慰安所を設置

1941年12月 アジア太平洋戦争 — アメリカ・イギリス・オランダなどに対して戦争をおこし、東南アジア・太平洋の広大な地域を占領する。

1942年初めから、日本軍が占領したこれらの地域に軍慰安所が次々に設置される。

◎ 慰安所は日本国内にもあった。この中で長野県の松代に朝鮮人「慰安婦の家」があった。この松代の慰安所は、松代大本営工事で監督に当たった日本軍人らの「慰安」のためにもうけられた。日本国内の慰安所 大阪・福岡・富山・松山・千葉 新島・八丈島 など他にもあった。

■ 今、問題になっていること

◎ 軍の関与について (国家機関や公共団体が発行する文書) → 1992年に、防衛庁防衛研究所図書館(東京都墨区)に保管されている旧陸軍の公文書をつづいた「陸支密大日記」「陸要密大日記」の中から旧日本軍が中国大陸で「慰安所」の設置や管理を行っていたことを示す文書が発見された。

※よって、軍が関与をしていた事は確かとなった。

◎ 慰安婦の「募集」について 軍隊慰安婦の募集は軍による選定された業者たちの下で、下請業者が行った。

いじめ考察

中野実業高校3年 阿部千晃

阿部論文についての前書き

「いじめを考える高校生たち」 中野実業高校教諭 倉科浩彰

昨年本校で開講された3年生対象の選択科目「時事問題」には、関心の高い生徒たちが集まって...

生徒たちは、新聞記事の切り抜きを貼り直しながら、最終的には個人研究をまとめることになる。

昨年、「いじめ問題」をテーマに取り上げた生徒がいた。英語を把握しないといけないのでは、ということ本校の生徒降着とある中学校に協力を依頼してアンケートを実施した...

本年度の時事問題で、再び「いじめ問題」を研究テーマに選んだ生徒がいた。それが阿部さんである。教科担当は私ではないのだが、「須高市民の会」に顔をだしていた私は彼女を誘ってみた...

(この論文は、去る6月8日に須高市で開催された「前島優作君を偲ぶ会」で発表された。)

私はこの4月から「時事問題」という授業を受けています。授業内容は、その名のとおり、現在社会で起こっていることを新聞を使って学習するというもので、私は、たまたま望月高校生のいじめ自殺についての新聞記事を取り上げたことがキッカケで、いじめ問題に関心をもちました。

私は、この世で絶対許されないのは、正当な理由なしに人やモノを傷つけることだと思います。外面だけではなく内面も傷つけるいじめは、一番悪質で許してはならないことだと思います。

でも、思っているだけではいじめはなくなりません。それなら、いじめをなくするにはどうしたらよいか、自分には何ができるかと自分なりに考えてみました。

その結果、時事問題の研究テーマとして、いじめ問題を取り上げて、いじめのことについての知識を調べて、多くの人たちに伝えていくことなら出来るような気がしました。しかし、こんなことでいじめはなくなるのだろうかと思うと、全くといっていいほど自信がありません。

しかし、私の考えに賛成してくれた倉科先生が、尾木直樹先生の講演会に誘って下さいました。最初は、ものすごく空乏しい講演会ではないだろうか、私に理解できるのだろうか、心配でした。

しかし、参加してみると納得させられることばかりでした。なぜいじめが起きるのかと会場の人に聞くと、ところどころ始まりました。

そして、会場からは、社会全体がいじめの構造になっている、子ども人間関係の貧弱さ、物欲主義、いじめた子側に反省させない問題等の意見が出されました。

私は、喜怒哀楽のバランスが崩れてきているように思いました。欲しいモノなら何でも手に入っちゃってしまってますから、それが当たり前に行われてしまっているため、喜びや楽しさを感じなくなっているように思います。ですから、少しでも気に入らないことがあると、すぐ挫折してしまったり、ものすごい憤りを感じ、人やモノに八つ当たりしてしまうように思いました。つまり、身体の内面では昔と比べて成長していますが、精神的なところは、全然未発達状態なのだと思います。

さらに、尾木先生は、いじめられっ子をなくすのではない、いじめっ子をなくすのだとおっしゃっていました。いじめられっ子がいるからいじめっ子がいるのではなく、いじめっ子がいるからいじめられっ子がいるというのでしょうか。私はその通りだと思うと同時に、なんでそんなことに気がつかない人たちが多いのだろうと思いました。

いじめられっ子をケアするのも大切だと思いますが、いじめを平然とやってしまう子のケアをするのが先決なんだと感じました。そして、その他いろいろなお話を聞いて、いじめに対する考えを深めることが出来ました。

5月24日、こんどは、故前島優作君のご両親にお会いすることが出来ました。そして、優作君が亡くなってからの学校の対応などについて、話を聞かせていただきま

まほろば 14号 (資料4) 信州の教育と自治研究所『まほろば』14号 p.36~40 より 1997年7月

生徒の個性 対話の窓 建設標 1997.6.14(土) (信毎) 建設標の図 建設標の図 建設標の図

(資料6) 「信濃毎日新聞」(1997.6.14) より

新聞を教材に 社会をみる目

「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」

「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」

「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」

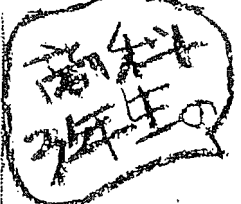
社会科 黒岩先生の記事

C3A 丸山さんの記事



時事問題より

クローン技術
人には許すな
クローンは人間の複製を
可能にする技術であり、その
倫理的な問題は、人間の本質
や生命の尊厳に関わる。多く
の国々で厳格な規制が導入さ
れている。クローンを人間の
複製に利用することは、生命
の尊厳を損なうと見られる。
多くの国々で厳格な規制が
導入されている。



新聞を読んで
視野が広がる
昔からの通り道、ふ
つと道を歩むが、大
きく変わっている。大
きな変化が起きている。
五年間の道程は、
目に映る光景も、
その温度も変化した。
この変化は、何を考
えて、何をすべきかを
考えている。これこそ、
成長の機会である。
最近、成長のため新聞
を読む機会が増えまし
た。以前は夢でいえば
手にしたものだ。
だが、今は新聞の
記事は、多くは時局
の中心で、読むにつ
れ、新しい発見がある。
心を開き、世界を
感じたい。新聞が、
この世の中を、
自分自身の目で、
知る機会である。
新聞が、視野を広げて
くれる。

C3B 本多さんの記事

C3A 白鳥さんの記事

「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」

「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」
「新聞が、新聞を」

山 本：新聞は、国民の何割が読んでいますか。

・一世帯1部以上。官庁・大きな会社で、平均を押し上げている。無読層が増えているのが心配。

近 藤：今の高校生は、新聞記者の目でどう見えますか。

・忙しそうだ。もっと好きなことやればいいのと思う。元気ない。

岡 田：1つの新聞をつくるのに、何人の人が関わっていますか。

・信毎社員500人弱。

新聞(1面)の活字を打つのにどのくらいの時間がかかりますか。

徳 武：週刊誌と新聞の違いについて、どう考えますか。

・読者の対象が遠う。方針が遠う。日本の新聞は、中学生以上であれば誰でも読めるように作られている。NEW YORK POSTは、読者層が決まっており、70万部しか発行していない。

島 田：情報は、どのように新聞社に入ってきますか(情報収集のやり方)。

・時事通信、共同通信、信毎記者の情報がひっきりなしに届く。信毎記者は、3部に別れ、発表記事と特ダネ記事を書く。

村 松：2面に載っている“首相の一日”の記事はどの様に作られるのですか(誰がどの様に時間を測って、どう報告されるのか)。

・首相官邸に首相番という記者がいる。現在は、時事通信と共同通信の記者が担当。どの新聞も同一記事。廊下に立っていたり、車で追いかけていたりしている。

本 多：「社説」に載せる記事は誰が選んで、誰が執筆するのですか(いつも同じ人が書いているのですか)。

・論説委員(6人)で会議をして決める。ストレートニュースはない。デスクで激しく論議することもある。

四コマ漫画は、何故あるのですか。

・息抜き(特に、社会面は暗い記事が多いため)。昔は、新聞小説を読むために新聞をとっていた人もいたくらいだ。

白 鳥：新聞紙の下の部分は、何故穴があいているのですか。

・印刷の後、発送のため数を数える時につく。

丸 山：記事がない場合は、新聞の体裁をどの様に調えるのですか(厚みを保つ)。

・ヒマネタをストックしておく。けれども、デスクには常に新聞に載せる量の5倍のニュースが入ってきている。だから、足りなくなることは殆どない。

常 田：広告の値段はいくらぐらいですか(1面全部使ったものなど)。

・値段表がある。15段のうち、1段横何cmでいくら?と決める。定期と一げんは遠う。黒枠が1番高い。おくやみ欄はサービス。1面全部の広告は何百万。新聞

の部数によっても遠う。

阿 部：テレビ欄の下にある“今日のみどころ”欄の番組は、どの様に選ぶのですか。

・新聞記者の判断。話題性、地域性など。「前に、自分もカラーで載せてもらったことがあるんです。」「そりゃー、長野の人だもの当然でしょう。」「(先生恥ずかしいこと言わないでヨ。爆笑!)

その他：

・新聞記者の給料はいくらぐらいですか。

* 銭金の問題じゃない。普通の会社と同じ(12時間以上労働)。先生の給料より少し安い。

・毎日の新聞のページ数には決まりがあるのですか。

* 最大で40P. 最小で24P.。夕刊8P.

・新聞一つ作るコストはいくらぐらいですか。

* 素材費で、1P.=1円。

・新聞紙は再生紙ですか。

* 30%。

・テレビで取り上げた事件は意識しますか。

・個人のプライバシーは、どこまで保護しますか。

* 今回のFOCUSの広告は載せていない。それも会社のポリシーだ。全国で、載せなかったのは3社だけだった。

・他の新聞社は意識しますか。

* 朝日に似ているといわれる。地方紙では、硬いが間違いないと思っている(自分でいうのも変だが)。新聞は古さは、日本で2、3番目(124年目)。

・各種大会・コンサートなどへの後援は、どんな見返りを期待していますか。

* 後援・協賛の依頼はいっぱいくる。社のイメージを壊さないよう会議で決定する。好きでやっているものばかりではない。

・事故欄や・火事欄に載る記事と、それ以外に紙面をさく記事とはどんな違いがありますか。

* 死亡・重体事故以外は、フラッシュ欄。「そういえば、火事の欄にも出たことあるんですヨ。」「先生もいろんなとこ登場しますね。」「(また言ったら、爆笑!)

・ひとつの事件をどこまで、いつまで追って、記事にしますか。

・1面に載せる記事は、どうやって決めるのですか。

* 17:30の編集会議で決める。編集局長・各部長など15~16人の会議。

・年間売り上げ。 * 出版などもいれて、250~260億円。

(資料7) 報道部長さんとの質疑応答(生徒配布プリント)(一部)

1. 整理部(編集)について

- ・机とコンピュータだらけという感じだった。新聞一つ作るのにも、あれだけの人が働いているのだから、すごいと思った。
- ・すっごく動いている、という感じがして、いい空間だと思いました。テレビが多くあり、いつでも情報が集められるようになっていて、なるほどと思いました。見出しの作りにも、大きなコンピュータを使っていて大変そうだった。みんなで分担して作り上げる、という感じがしました。
- ・ムシムシしてた。何か熱気のようなものがあった。本当に忙しい時間帯は、私たちが見学しているのはジャマなのではないかと思うくらいだ。毎日2回も新聞を作るなんて、大変だなあと感じる。
- ・すごく忙しそうだった。deskは、やっぱり大変そうだ。
- ・日本の今を感じた。すごい忙しそうだった。
- ・男の人の方が多かった。やっぱり、まだまだ女性は少ないんだなあと感じました。新聞1面の組み合わせを、コンピュータでやるということがなんだか驚いた。寝ている人もいて、疲れているんだなと思った。忙しそうだったのに、少々じゃましちゃったように思う。申し訳なかった。
- ・みんなとても忙しそうで、私たちは迷惑をかけたような気がする。
- ・とても忙しそうで、私たちは邪魔だったと思う。本当に休む暇もないみたいで、大変だなあと思う。
- ・とても忙しそうで、私達はきつとすごくじゃまだったに違いない。読み書き強そうな人達ばかりだ。なんか、一息つく間もないな一と思う。

2. 印刷部について

- ・あんなに大きな機械で印刷しているとは知らなかったから、すごく驚いた。あれだけの紙のロールが、朝刊一日分だけしかないということにも驚き。
- ・音が大きくて、ずっとここにいる人は耳がおかしくなるなと思った。印刷された新聞が、天井のところでシュルシュル流れていくところが、印象に残ってます。大きな紙のロールが何十個もあり、すべて使うことにビックリ。印刷がきれいな色になるまで、点検しなくてはならなくて、みなさんが頑張ってるって良かった。
- ・何万部も刷るので、すごいと思う。一気にあんな早さで新聞が出来ていくのにはカンドーした。時間に追われてる時は、もっと大変なんだろうなあ。
- ・臭いがきつかった。紙が多すぎだと思った。
- ・すごい勢いで新聞が出来ていた。紙がチクタクバンバンみたいに走っていた。
- ・はじめて“なま”の刷っているところを見れて感激した。新聞が空飛んで、す

ごいスピードで回ってて、すごいトレットペーパーみたいな巨大な紙があって、はじめてだったから、本当にうれしかった。

- ・新聞が「ざっざ」って印刷されていた時は、「これが本当の新聞社だなあ」と思った。新聞の元になる紙が一晩で全部なくなるなんてびっくりだった。
- ・テレビで見たのと違って、迫力があった。音も大きいし、1秒で40枚は本当にスゴイ!!
- ・楽しかった。新聞が1階から3階くらいで、印刷→折る、数合わせ、とすごかった。

3. 報道部長(中村さん)との話について

- ・分かりやすい説明で、いろんな事がわかった。新聞社の人達の苦労があるおかげで、私達がこうして学べるのだなと思うと、改めて感謝したいです。
- ・話が聞けて、本にうれしかった。新聞作るのが大好きだから、寝なくても平気だと言うところが、うらやましくびっくりもした。新聞を作るのに、沢山の人が関わっていて、毎日来る新聞にも作る人達の精一杯の気持ちが込められているので、もっとしっかり読みたいと思った。
- ・中村さんは、おもしろくて良い人だ。今までは、何となくしか新聞を読んでいなかったけど、作っている姿を見て、すごく大変な仕事だから、これからは、しっかりと新聞を読みたい。
- ・報道部長は、新聞社に入って良かったふうに思えた。幸せそうだった。
- ・いい人だった。人生がすごく楽しそうだった。
- ・えらい人なのに、ちょっと失礼ですが、あまり偉そうに見えないところが良かった。本当に新聞づくりっていうか、新聞の仕事をしていて楽しいって気持ちがあるからにじみ出でて、いい人だと思った。これからも頑張ってるってほしいです。
- ・信毎の会社に、新聞と同じ字で書いてあってうれしかった。1年間ずーと休みなしなんて、私はいやです。おまけに夜中までかかるし、本当に好きな人しかできないと思う。
- ・こうやって新聞が出来るんだと初めてわかり、いい経験したと思う。報道部長さんは、本当に楽しんで新聞を作ってるって感じがした。
- ・すごく新聞つくるのが楽しいんだろうな一と感じた。少年のような人だった♡なんかね一、一つのテーマであの人ともう一度対話してみたい。

(資料8) 新聞社見学生徒感想(生徒配布プリント)

「企業手当の見直しを」

記事の見出し

記事の概要

今まで9市で水道職員には企業手当、
が、だが、今見直しの動きが広がっている
それは水道職員が24時間態勢で
事故や故障に対応するため、支給されて
きたが昔ほど水道管の破裂もなく、緊急性も
低下したとの声だ。また企業手当を廃止している
飯田市は「実態に見合、た支給はなくなった」と言っている。
大町市は支給率を25%から30%へ上げたり市に

おとさまぞまだ、

見直しなど

今本場に水道管の破裂も緊急性

もなく、け、こう安心しているから、

水道料も税金みいたものだから、

月に決められた企業手当も出さず、破裂

や緊急があたし行き、この回数で手当を

も、もちが三三の思、市におてあ、

がたまたまでもこれからどう対応して

いくか見ていきま、

信濃毎日新聞 4月3日(木)

(木) 4月23日発表

近藤隆志

氏名

市名	企業手当の状況
松本市	企業手当は、松本市水道局(元松本電燈)の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
飯田市	企業手当は、飯田市水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
大町市	企業手当は、大町市水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
上田市	企業手当は、上田市水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
軽井沢町	企業手当は、軽井沢町水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
佐久市	企業手当は、佐久市水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
信濃川町	企業手当は、信濃川町水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
佐々木町	企業手当は、佐々木町水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
南木曾町	企業手当は、南木曾町水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。
小市町	企業手当は、小市町水道局の職員に支給されているが、今年度から削減される見込みである。

(資料9) 新聞発表の一例

24時間態勢 水道職員の「企業手当」 県内で廃止や削減の動き

9市で支給 庁内にも格差感

県内十七市の地方公共団体企業は、水道管の破裂や漏水による被害を防ぐため、24時間態勢で水道管の点検や修理を行っている。このため、企業手当(給与)の支給が、今年度から削減される見込みである。

松本市水道局は、今年度から、企業手当を削減する。これは、松本市水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

飯田市水道局も、今年度から削減する。これは、飯田市水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

大町市水道局も、今年度から削減する。これは、大町市水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

上田市水道局も、今年度から削減する。これは、上田市水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

軽井沢町水道局も、今年度から削減する。これは、軽井沢町水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

佐久市水道局も、今年度から削減する。これは、佐久市水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

信濃川町水道局も、今年度から削減する。これは、信濃川町水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

佐々木町水道局も、今年度から削減する。これは、佐々木町水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

南木曾町水道局も、今年度から削減する。これは、南木曾町水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

小市町水道局も、今年度から削減する。これは、小市町水道局の職員は、24時間態勢で勤務しているが、今年度から削減される見込みである。

新聞発表感想 (4 / 23 (WED)発表分)

村松直美 *制服着用は選択肢のひとつ。

・私服にしてもたいしたメリットもないと思う。制服を着ていれば高校生と見えるので、高校のうちにしか着れない制服を思う存分着た方が、後々いいと思う。

・私は、自由化って、よく考えたなあって思う。入学式とかはやっぱ制服でそろえた方がいいけど、その他の普通の日って、私服でもぜんぜん差し支えないと思うし。でも、制服着れるのって高校生までだから、制服がイヤでも我慢して着れば、それはそれで、高校時代のいい思い出になっていいと思う。村松のいうとおり、中実ももう少し規則を緩めてもいいと思う。

・私も自由化には賛成です。自由という事にすれば、先生方も目をつり上げて怒る事もなくなると思うし、私達も違反しているという気持ちなくなる。

・自由化がいいという意見が多かった。私も自由にしたいと思う。私服の方が便利な時もあるし、制服を着たい気分の時もあるから。生徒会で、全校の意見をきこうと思います。

・制服の自由化はいいことだと思う。それが、月に1・2回、自由化の日を決めて実施してみるのもいいと思う。そして、生徒や先生の意見をきいて、自由化にするか、どうかも決めた方がよい。

・私たちの学校をみても、制服を着用するという規則があるのに、ズボンの変形をはいていたり、スカートを短くしたり、ネクタイをちゃんとしなかったり、その他、いろいろ守っていない人はたくさんいると思う。それなら、制服を自由化した方がいいと思う。

近藤隆志 *企業手当の見直しを。

・たしかに、回数ごとにすれば、その分ムダなお金もいらないし、国民の税金も減ると思う。

・5年間で軽自動車一台分の手当は多すぎると思う。いざっていう時は大切かもしれないけど、「実態に見合った支給」がいいと思う。

・おもしろい記事だと思った。でも、まだよく理解できていない。税金の使い方を直すことは、これから大切になってくると思う。

山本陽介 *オリンピック成功に向けて黒岩先生新聞にのる。

・世界のオリンピックが自分たちの住んでいる所にやって来ることはすごいことだと思う。でも、オリンピックを開催することで、環境の破壊があるということは、なんだか悲しいことだと思う。その反面、高速道路ができたのはうれしい。

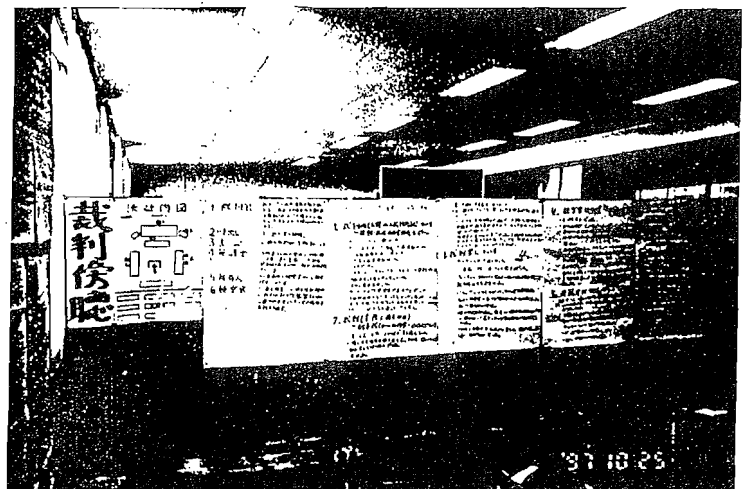
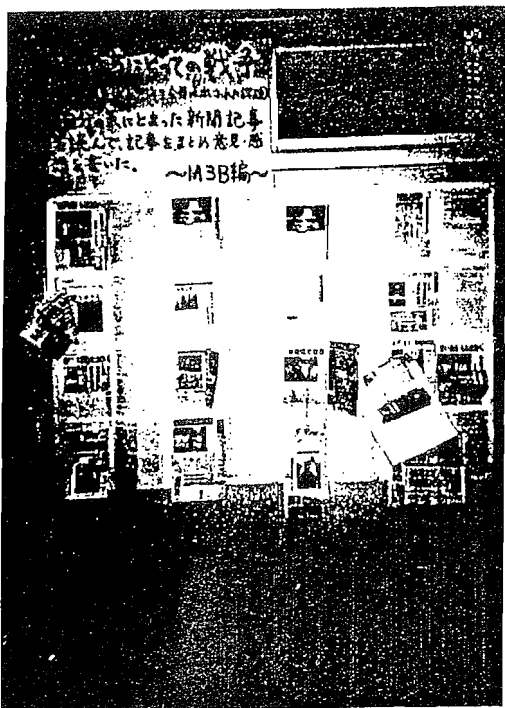
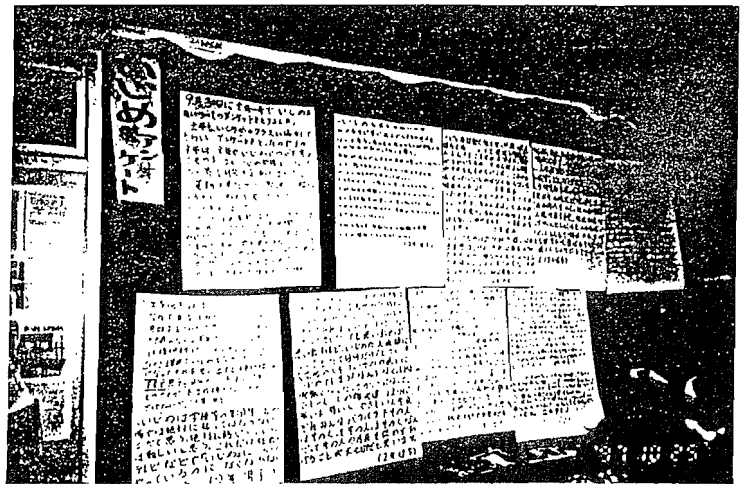
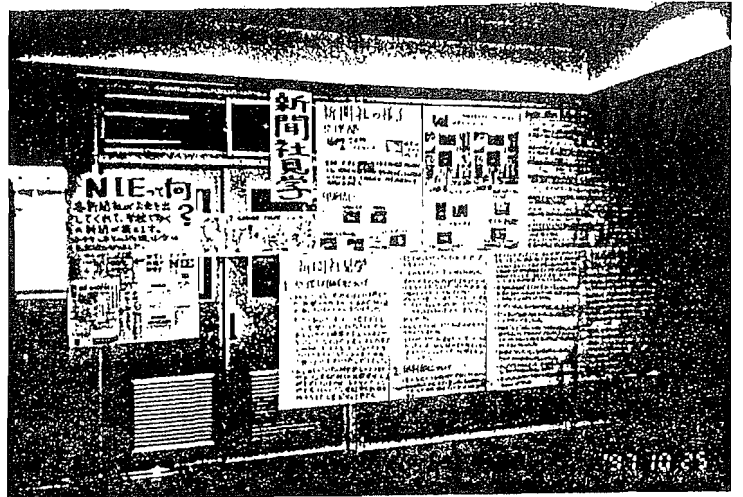
数カ月後のオリンピックが成功すれば良いと思う。

“クロイワファミリー超イケテル!”

・まず、先生が載っていて驚きました。長野オリンピックによって世界に長野の名が広まればとてもよいと思う。オリンピックに向けて、いろんな活動も進んでいるし、オリンピックにとっても期待しています。

・オリンピックまで1年をきり、新幹線や高速道、競技会場など、さまざまなものができてきたけど、オリンピック終了後、競技会場の利用など課題がたくさんなので、あまり喜んでばかりいられない。

(資料10) 新聞発表感想 (生徒配布プリント)



(資料11) 文化祭での展示発表風景

・いろいろな人の意見がみれて、いろ×な考え方がるんだなあ、あらためてかんじた。

私は、いじめられる人にも何らかの原因があつていじめられるのだと思う。『いじめ』と言われるものは、無視されたり、悪口言われたりすることではなく、イヤがついているのに強くそれをやらそうとすることだと思ふ。だから、悪口とか、無視とか、そんなのは、いじめのうちに入らないと思ふ。人間なんだから、人をうらんだり、ねたんだりすると思ふ。そのねたみや、うらみを、いじめとは言わないと思ふ。

私には、性格のあわない人がいた。一度注意しても直してくれないし、ぎゃくに注意した私が『なんでそんなこと言うんじゃー』とおこられた。そんなことがあつたから、イヤなところがあつても、ちがう友達にはなした(悪口)。あるとき、我慢できなくなって、自分からその人といふことをさけるようになってしまった。自分の中でそれが嫌だつたけど、注意したら、またおこられそうだったから、ずっとなやんでいた。なやんでいる間は、けっこう自分からはその人と話さなくなった。その人は『私にイヤなことあつたら言つてね』つて言つてきたけど、私は、またおこられるつて思つた。

私がつその友だちにした行為は、やっぱりいじめとつうのでしょうか? 私は、嫌いな人とは、一緒に遊びたくないと思ふし、遊ぶのに自分から誘うのもいやです。今の私は、その人をいじめてることになつているのかなあ? 《中2 女子》

・今、私は「埼玉県民活動総合センター」というところで、ボランティア初心者講習会を受講しています。その折、講師の先生(大学教授)から次のような話がありました。今までの学校(これから)は、『スズメ(雀)の学校だつという』つまり、『チーチーパッパ、チーパッパ雀の学校の先生は「ムチ」を振り振りチーパッパ』の歌詞のように、教師主導型で上下の関係から成り立っているという。これからは、『メダカの学校』『メダカの学校は池の中、誰がつ生徒か先生か、誰がつ生徒か先生かー』みんなで「スイスイ泳いでる」という歌のように教師・生徒の上下関係はなくして行くことだつと思ふ。との話をされてた。上下から水平へ。

今回偶然に、10/26中野実校第四十七回実高祭に、実は紙芝居の上演を見にきた。あいにく第一回10:00-10:30が終つて次の時間まで間があるので、「いじめの問題」にとりくんでいるコーナーに立ち寄つてみた。その資料を読んでるうちに、どうも気になるものがあるので、一寸ふれてみたが、愛知県高校生フェスティバル実行委員会第18回結成全体会参加者一同の『声明文』の中に、今の学校は、「皆同じでなければならぬ」といい、一以下の文面である。「同じ」ということは個性を見失う恐れがあるように思つてしかたない。同じ型だと命令が行き届くし、言いなり型の人間ができあがるし、上の方ではとてもやりやすい業である。へたに「文句」をいうと、ふくろだたきにあい、村八分になる。なに事も誰もがつ、「いじめ」にあうのがこわいから「言いなりになつている」。このいじめのすべては、そんなところから生まれてきているように思ふ。だから、これを直さない限り「いじめ」は減るわけはない。また、信毎の追跡1/14(水)須坂中一の自殺に信大の吉松先生がつ昔に比べて先生の厳しさも、訓練もすっかり薄れて、たくましさも忘れてしまつた現代は「云々」とありますが、物質的な豊かさにスッカリ心がマヒして、苦しさに耐えている人のことを忘れかけているように思ふ。他方、私など高齢者は昔の苦しさを耐えてきているので、イキナリ物が豊かになつても驚かない。世の中このまま

ではなく、いつか物がなくなつてきてもたいして気にしない、このような「耐える力」をつけていくことが大率なことではないかと思ふ。決して、障害者も人に頼つてばかりではなく「自立」を目指しています。困つてるときに、いかに手をかすが、これがボランティアの真諦であろうと思ふ。ですから、これからの学校教育の中に、ボランティア教科を必修にして行くことがいじめの問題解決の一助ではないかと思ふ。すでに、この方法をとられている学校も多く実績をあげているようです。本校でも、きつと多くの方がボランティアをされていると思ふ。ご活躍を祈ります。トリトメのない落ち着かぬ文面になりなしたが、意のあるところをおくみとり頂ければ幸いです。

平成9. 10. 26

山ノ内町よませスキー場バディントンハウス

河西 猛

・「いじめ」についてのアンケートですが、「いじめ」は私選(50才)の学生時代からありました。現代は、特に人権意識が叫ばれるようになり、小中高生の「いじめ」がつ社会問題化して、マスコミでも取り上げるようになったと思ふ。

しかし、「いじめ」は学校だけでなく、会社、政界(野党は、与党・政府をいじめてる?)。家庭では、嫁と姑の間にもあるのです。ですから、いじめ問題をもつと広く把握した方がよいと思ふ。

知人の戦争体験者につ聞いた話ですが、昔の軍隊のいじめはひどかつたそうです(新兵をさんざん殴つた)。ですから、戦争が終つて母国へ返る引き揚げ船の中で、かつての上官を憎しみのあまり、海に投げ込んで殺した例もあるとのこと。生徒の皆さんも、歴史の勉強として研究してみてもどうでしょうか。

すばらしい授業をしてくれました。こんな授業を1回だけでなく、視点をかえて何回かやれば、もつともつと真剣に考えられるのではないのでしょうか。ぜひ、この感想を、もう一度みんなで読み返し、討論してみてもどうでしょうか。(一市民)

・いじめは、けっこう身近だけど、それについて、いろいろな意見があつて、こういう考え方もあるか…とろんな方向から考えることができました。1人1人考えるのが大切だとか、いじめる人の親が悪い、人の気持ちを考へてとか、友だちに相談とか、みんな自分なりに意見を持っているんだなあーと思つました。「死んじやだめ」とか、「やられたらやり返す」「自分に自身をもつ」など参考にしたいし、友達を大切にしたいです。

また、裁判について、新聞社見学、戦争について、写真などと一緒になるほどかと思ふ考へがつたくさん書いてあつて良かつたです。裁判傍聴は、「緊迫した雰囲気」とあつたので、私も行つてみたいと思つました。ありがとうございました。

・いじめについて、いろいろと書かれてるのを見て、とても興味があつたので、さらに考えさせられました。今の世の中、「いじめ」は解決しにくい問題となつているので、みんなもつと真剣になつて考へてほしいです。そして、いじめをなくしたいです。この発表では、解決法もたくさん書かれていて良かつたです。

・いじめる人がいれば、いじめられる人がいるとつう事。いじめがなくなつとつう事は、すぐには無理だつと思ふ。いじめられた人は、必ずだれかに言つて少しでも一緒に考へてくれる人を増やすに限る。ちくられて、またいじめられる事、そのくり返しはいじめにあつている人のストレスになる。いじめてる人には、いじめにあつている人の気持ちは分からないけど、その気持ちを伝えられる事ができるようにするのが一番!

若葉 しの (79)